



尿管ステント留置術を
受けられる患者さんへの説明文書

東京女子医科大学 泌尿器科

説明書

治療の名称	尿管ステント留置術
-------	-----------

説明項目

1. 診断名（病気の名前と進行度）

- 尿管狭窄（腫瘍性、尿管結石性、炎症性など）、その他（ ）などが疑われます。

2. 病気の説明（どこに、なにがおきてどうなっているのか）

- 尿管に狭窄があるため、腎臓からの尿排泄が不十分となり、腎盂内圧の上昇や腎機能の低下、閉塞性の尿路感染をきたす可能性がある状態です。

- （ ）： _____

3. 目的および必要性（なぜこの方法が提案されたのか）

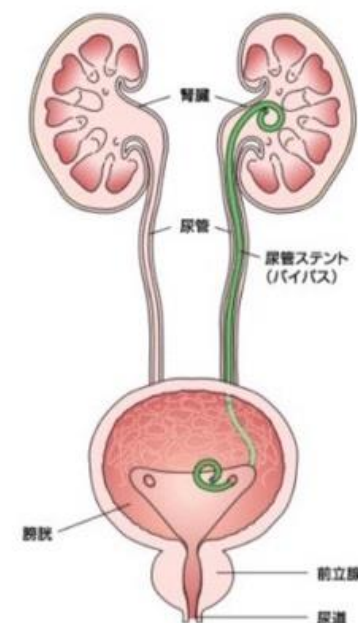
- 尿管狭窄に伴う上記症状を治療するために、尿管ステントを留置する必要があります。

4. 方法（なにをどうするのか）

- 処置は外来透視室で施行します。
- 両足を開脚する姿勢（碎石位）になります。所要時間は30分程度です。局所麻酔として、尿道に麻酔成分入りのゼリー（キシロカインゼリー）を注入します。
- 尿道に膀胱鏡を挿入し、尿管の膀胱への出口（尿管口）を確認します。ガイドワイヤーを尿管口に挿入し、それに沿わせる形で尿管に細い管（尿管ステント）を入れます。挿入時に造影剤を併用することがあります。

5. 受けた場合の予想される経過（期待されること）

- 尿管ステントを留置することで、狭窄に伴う腰背部痛や閉塞性の尿路感染、腎機能低下などを改善することができます。



6. 危険性および起こりうる合併症について（心配されることや副作用）

処置は安全に行われますが、下記のような合併症がおきることがあります。

- 疼痛・違和感：膀胱鏡操作や尿管ステントの留置に伴うことがあります。
- 感染：滅菌された器具を用いますが、検査後膀胱炎のような症状がでたり、腎盂腎炎・前立腺炎などを起こし熱が出る場合があります。
- 血尿：膀胱鏡操作やガイドワイヤー挿入、尿管ステント留置により、尿道・尿管がこすれたりして一時的に血尿がでることがあります。血液をサラサラにする薬の内服がなければ、通常は自然に治ります。
- 尿管・腎臓の損傷：ガイドワイヤー操作中に尿管や腎臓を傷つけることがまれにあります。
- 造影剤自体の副作用：まれに注入された造影剤が少量血管内に入り、造影剤へのアレルギー反応が生じることがあります。

7. 合併症発生時の対処について（費用負担もふくめて）

- 合併症改善へ迅速に対応します。
- 感染：予防するために、検査後数日抗生剤を内服していただきます。また、十分な水分補給を行って下さい。発熱した場合は点滴の抗生剤を使用することがあります。
- 尿管・腎臓の損傷：尿管ステントを留置することで、損傷部位は通常自然に改善します。
- 造影剤アレルギー：症状をみて、抗アレルギー薬の投与など対処を行います。
- なお、合併症が発生した場合も、一般的には医療保険で対応いたします。

8. 受けない場合の予測される経過、代替手段（他の治療法）

- 尿管結石性：腎盂内圧の上昇による腰背部痛が持続します。
- 閉塞性の尿路感染：腎臓内に細菌が侵入し、重症感染症の敗血症に至る可能性があります。
- ときおり腎機能の低下をきたすこともあります。
- 代替手段として、尿管の蛇行や尿管の閉塞により尿管ステントが留置できない場合には、経皮的に腎瘻を造設することがあります。

9. 説明内容の理解と自由意思による同意承諾およびその取り消しについて

- いったん同意をされた場合でも、いつでも撤回することができます。やめる場合は、その旨を担当者へ連絡してください。
- この処置に同意されるかどうかは、患者様の意思が尊重されます。同意されない場合でも、不利益を受けることはありません。

尿管ステント留置術を受けられる患者さんへの説明文書
東京女子医科大学泌尿器科学教室
Department of urology, Tokyo women's Medical University.

以上の点について説明を受け、よく理解し、検査に同意します。

年 月 日 患者氏名：

患者家族氏名：

1)

2)

3)

その他、特に説明した内容

a)

b)

以上の点について、患者、患者家族に十分説明しました。

説明日： 年 月 日 施行予定日： 年 月 日

診療科名：

説明医師：